

令和 7 年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第 1 回第一分科会
開催日時	令和 7 年 7 月 1 日（火）午前 10 時から正午まで
開催場所	葛飾区役所新館 5 階 庁議室
出席者	【委員 8 人】 （出席）大石会長、折登委員、齋藤委員、佐藤委員、柴崎委員、関口委員、高橋委員、谷本委員 （欠席）なし 【区側 8 人】 事務局（政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員 4 人） 広報課（広報課長、広報係長）

会議概要

1 開会

（事務局から資料の確認）

2 事務事業の説明、質疑応答

（広報課から「広報かつしか発行」の基本情報及び実績情報について説明をした後、質疑応答、議論）

A 委 員：全戸配布とあるが、住民票に登録されている世帯に配布するのか。
アパートの部屋ごとに全て配布されているのか。

広報課長：後者である。広報かつしかはシルバー人材センターのスタッフが各自担当する地域のあらゆるポストに投函している。例外として、配布を希望しない世帯には配布していない。

B 委 員：発行ページ数が号によって違うのはなぜか。

広報課長：ページ数に関する決まりはない。現状、印刷可能なページ数は最大 16 ページである。パワフルかつしかやスポーツかつしかを一元化したことや、掲載したい情報が多いことから、年々ページ数が増え、現状は 12 ページと 16 ページになっている。

B 委 員：決まりがない中で、12 ページ、12 ページ、16 ページを基軸にやっているのか。

広報課長：現状の体制において、このページ数が限界である。

B 委 員：各公共施設には、何か所に、何部ずつ配布しているのか。

広報課長：全体で 1,350 部を、毎号区役所から交換便を使って配布している。
具体的には、保育園や児童館など 64 か所と、区内の学校 73 校には、

各施設 1 部ずつ配布している。地区センターは、例えば、金町地区センターは 1 か所 45 部、四ツ木駅区民サービスコーナーは 10 部と、施設によって差があるが、平均すると 20～30 部を配布している。また、かつしかシンフォニーヒルズは 40 部、ウィメンズパルは 30 部、学び交流館は 30 部、保健センターは 30 部配布している。20～30 部配っている施設は 30 か所程度である。

B 委 員：各施設の広報かつしかは全数配布しきっているのか。

広報課長：不足しないように多めに送付しており、余っても回収せず、各施設で廃棄している。予算要求の際、各施設から余り分の情報をもらい調整を行うが、年度内は固定の数字で配布している。また、個別の電話対応もしている。

C 委 員：目標との乖離について、広報かつしかから区の情報を入手しているという指標は 89%と高い。高齢者は紙面で見たいと思う方も多くいる。一方で、指標の必要な区政情報を十分に得られているという区民の割合は 40%であり、若い世代は十分情報を得ている一方、50～60 代は情報を得ているとの割合が低いとのことであったが、高齢化が進む中、特に 40～50 代といった中間層の世代に、どのように広報として区の情報を浸透させていくか教えてほしい。

広報課長：高齢者でもスマートフォンを持っている方が増えていることから、使い方は多くの層に浸透している。また、9 割の区民が広報紙を見ているが、思ったより情報を得られていないということが推測されるので、広報紙を充実させていくことで、指標の 4 割を更に増やしたい。ウェブ版広報はウェブ版としての見やすさを検討しつつ、紙の広報紙の充実にも重きを置きたい。

C 委 員：学校の情報もアプリから配信されるようになったが、年代によって、登録等の操作が難しい場合もある。広報紙も同じだと思う。

広報課長：具体的な解決は難しいが、ウェブ版広報についても見やすさなどの充実を図り、高齢者がスマートフォンを通じて情報が取れるような形に改善していきたい。

D 委 員：紙、ウェブ版ともに広報の浸透性を上げることが重要と思うが、紙ベースを中心に考えているのか。区民の年齢構成がヒントになるのではと思うが、年齢構成等を考慮してどのようなアプローチを考えているのか。

広報課長：高齢になるほど紙の広報紙の需要が高い。区民の 9 割が広報かつしかから情報を入手している中で、紙版を縮小する考えは今のところない。ウェブ版広報については、単にホームページに置くだけでは

なく、誰かに閲覧してもらう工夫が必要である。例えばLINEは、登録さえしてもらえれば、プッシュ型で相手に情報を送ることができる。ウェブ版をただ作るだけではなく、SNSを通じて区からアプローチをしていきたい。

D 委員：各記事の中に二次元コードを入れて、ウェブページにアクセスできるようになっている。若い世代は、知りたいことに直接アクセスする傾向にあるので、広報紙からウェブ版広報にアクセスできるようにレイアウトを工夫すると、広報の幅がより広がるのではないか。

広報課長：最近、二次元コードを活用するようになっている。広報紙の紙面に入りきらない情報を伝えることができるので、非常に有効と考える。いただいた意見を参考にしたい。

E 委員：月に3回の広報紙を楽しみに見ている。カラー刷りで重要なことがすぐに目に入るので、良いことである。紙面で手元にある方が便利である。

F 委員：ウェブ版広報の費用は、どこに含まれているのか。

広報課長：葛飾区のホームページはCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）という種類のもので、各職員が簡単な操作でページ作成・更新ができる。ウェブ版広報も職員がページを作成しているため、委託料はかからない。作成する時間分の職員の人件費はかかるが、予算で数字が大きく出るものではない。

D 委員：費用は人件費に入っているということか。

広報課長：そのとおりである。

F 委員：LINEも同様か。

広報課長：いわゆるSNSはそのとおりである。

F 委員：マチイロなどへの支払いはあるのか。

広報課長：掲載に当たっては区側の承諾が必要であるが、費用は発生しない。

F 委員：現在の広報のやり方について効率的かは疑問である。人口が増えたから部数を増やしたり、カラーにして読みやすくしたという変更は、費用を無尽蔵に増やしてしまう。効果を測る指標がないと費用は増加する一方なのではないか。また、社会全体では紙資源を減らそうとしているのに、広報かつしかの発行部数やページ数は減らさないというのは流れに逆行している。

大石会長：事業評価をする中で、PR不足が必ず出てくる。所管事業のPRと広報かつしかとの連動性についても検討する必要がある。

G 委員：指標の、必要な区政情報を十分に得られているかについて、ほかの区の実績はわかるか。

広報課長：区独自の指標であるため、他区の実績は持ち合わせていない。

G 委 員：年間のページ数や全戸配布の実施など、他区より力を入れているように思ったが、指標をみると、40%程度である。一見、低いように見えるが、他区に比べたら高い可能性もあると思い質問した。

B 委 員：区民大学講座を知った媒体についてアンケートを取ると 8 割以上が広報かつしかであった。広報かつしかの必要性はとても大きいと感じる。世代に関係なく手軽に手に取れる良さがある。
ただ、デザインレイアウトについては、事前に掲載可能な文字数などを決めてほしい。区民大学にかかわる区民等が見出しで受講者を呼ぼうとして原稿を作成しているが、ルールや理由もわからないまま文言が削除されてしまい分かりづらくなる。また、シルバー主催の講座のページとは別のページにあたりする。まとまっているほうが分かりやすいのではないか。

広報課長：文字数は、我々も頭を悩ませながらやっている。この見出しにしたというのは毎号担当者とやり取りしている。広報課のスタンスはなるべくシンプルにするよう心掛けているが、調整が難しいこともある。文字数制限はないが、タイトルは 3 行にならない程度を目安としている。掲載ページについても、シニアと講座のどちらのテーマに掲載したほうが良いかを、毎号考えながらやっているのが現状である。統一の方針はあるものの、より区民に見やすいように都度頭を悩ませながら、校正会議をしている。

大石会長：本委員会で、広報という事業を検討することも一つだが、広報課の体制や現場の悩みなどを行政評価の中で聞きたい。広報かつしかの職員体制はどうなっているか。

広報課長：係長入れて 10 人で実施している。

大石会長：各号 3 人ずつなのか。

広報課長：掛け持ちで実施している。

大石会長：人数は足りているのか。

広報課長：工夫してやっている。

大石会長：課の率直な意見も聞きたい。委員と所管課両者の意見を聞きつつ改善点を考え、お互いに win-win の関係になれるようにするのが行政評価だと思っている。

A 委 員：広報かつしかでは、掲載できない記事などの制限はあるのか。

広報課長：区が主催、後援しているものは制限ないが、外部の方からの記事には制限をかけている。自由に講座案内や会員募集ができる「区民のひろば」というコーナーもあるが、面積が限られている。また、区

の事業であっても区民にお知らせするものの方が、事業の実施結果や報告の記事よりも優先度は高い。

A 委員：記事は、様々な性質がある。個人情報の問題もあるが、最近区民のおくやみ情報が把握できなくなった。区の広報であれば、そのような情報を載せられると思ったが、禁止事項なのか。

広報課長：個人情報の規制もあり、現状は掲載していない。

C 委員：昔は右綴じだったが、左綴じに変えた理由は何か。

広報課長：表記の中でアルファベット表記が増えたので、縦書きから横書きに変更した。横書きに統一したことで綴り方も変えた。

（広報課から「広報かつしか発行」の予算及び決算状況について説明をした後、質疑応答、議論）

F 委員：パワフルかつしかとスポーツかつしかは、どこの予算だったのか。

広報課に吸収した際に、元所属の予算はなくなったのか。

広報課長：予算について、令和6年度から広報課に全て合算している。

F 委員：パワフルかつしかとスポーツかつしかの予算は入っているのか。

広報課長：令和6年度以降、広報課の印刷製本費や委託料に合算した数字が入っている。

F 委員：元所属の予算はどうなっているのか。

広報課長：令和5年度以前の生涯スポーツ課と産業経済課の予算は含んでいないため、比較できない。また、入札の結果、広報かつしか・スポーツかつしか・パワフルかつしかの印刷はいずれも同じ業者が落札していた。

大石会長：シルバー人材センターの広報かつしか配布の費用はどの予算か。

広報課長：委託料である。

B 委員：配布の委託と音声版の委託の内訳を教えてください。

広報課長：資料6に記載している。

B 委員：世帯数が増えたことや、物価高騰で人件費が増えたことが原因で増額しているのか。

大石会長：委託料が1,400万円増えているが、件数が増えているのか。また、印刷費も倍になっている。部数が増えたら通常は安くなるのではないか。

広報課長：シルバー人材センターの人件費高騰がある。

B 委員：発行部数がそれほど変わらないのに委託料がここまで上がるのか疑問である。

広報課長：スポーツかつしかとパワフルかつしかが統合されたことで、広報の

重量が増え、配布の委託料が増加した。

B 委 員：8 ページ増えるだけで、そんなに変わるのか。

広報課長：配布の単価が変わる。一部当たり 4 ページだと 7.46 円、12 ページだと 11.58 円、16 ページだと 13.31 円となり、単価がだいぶ上がる。

B 委 員：何の基準で価格が決まるのか。

広報課長：シルバー人材センターの基準である。ページ数が倍になると、分量も倍になるので、配布に係る労力も 2 倍になる。

A 委 員：シルバー人材センターから請求が来るのか。

広報課長：そのとおりである。

大石会長：シルバー人材センターへの委託は入札か。

広報課長：特定随意契約で単価契約である。

B 委 員：コストを見直し、入札にしても良いのではないか。

広報係長：全戸配布となると、規模や価格の面で業者を探すのが難しい。

B 委 員：できる業者がないと決めるのは早計である。

広報課長：適正価格は追及していく。結果、シルバー人材センターに頼むとなっても、価格交渉は必要となる。

D 委 員：単位当たりのコストについて、実績数値の読み方がわからない。

広報課長：総発行ページ数の計算は、年間の発行部数とページ数を掛け合わせた数字である。それを総コストから総発行ページ数で割った数字になっている。

D 委 員：この数値を見ると単位当たりコストはそれほど上がっていないということかもしれないが、ページ数の方が良いのか、発行部数の方が良いのか、疑問である。適格に表すことができる値を検討してほしい。

広報課長：1 号当たりのページ数が異なるため、部数で割るのは難しい。

F 委 員：例えば、区民が 1 人当たりの広報費がいくらなのかという指標があると良い。総額を世帯又は人口で割り、区民 1 人当たりに対して広報がいくらかかっているのかを知りたい。

また、広報かつしか、スポーツかつしか、パワフルかつしかの入札は、同じ業者が落としているとのことだが、何社が入札を申し込んでいるのか。

広報課長：落札業者は毎年変わっているが、入札申込みは 5 社程度である。

F 委 員：改善した方がよいと現場で思っている課題はあるのか。

広報課長：スポーツかつしかやパワフルかつしかを広報かつしかに一元化したとはいえ、それぞれのページは、各所管課が作っているため、同じ指針の下で作成していても統一感が取れていない部分がある。外部

からの意見をいただきたい。

B 委 員：以前、ほかの事業の検討会の中で、区長が、広報かつしかの紙面作成を各所管課に任せることも考えているという話があった。所管課に任せることで、人件費の改善もできるのではないか。

広報課長：区の場合、広報紙の原稿は各所管で作成し、広報課が取りまとめている。各所管で紙面ごと作成してしまうと、表記の揺れや統一感がなくなり、区民にとって読みづらくなることが懸念される。校正作業も短期間であり、現実的に難しいと考える。

C 委 員：作業の流れは現状のままで良いと思うが、係の体制が厳しいのではないか。

大石会長：委託が主だが、原稿の取捨選択、校正、その他作業もあると思うので、人件費の 7.9 人は少なすぎると感じる。

広報課長：ページ数や業務量が増える中、大きく人数は増やさず、作業や体制を工夫している状態である。

大石会長：一番大切なのは、区民の満足度を上げることである。ほかの部署と異なり、ある程度費用がかかってしまうのは仕方ないと考える。評価指標は、もう少しきめ細やかに設定した方が良いと考える。

D 委 員：シルバー人材センターと随意契約しているのであれば、内容はきちんと見直したほうが良いと考える。

また、多言語アプリの使用料が令和 6 年度は計上されていないが、理由を教えてほしい。

広報課長：ホームページが多言語対応となったため不要となった。

G 委 員：広報の紙面には、統一感があると思う。内容にも満足しているので、コストをどのように減らすかを中心に考えたい。

E 委 員：広報紙の広告面に掲載されている事業者は審査しているのか。

広報課長：区の消費生活センターに確認し、その業者に対する苦情がないかどうかなど、内部で審査した業者を掲載している。

E 委 員：掲載業者のサービスは、適正な金額で行われているのか。

広報課長：自由設定なので、区が業者に対して価格に関して意見することはない。しかし、価格が高すぎたら消費生活センターに苦情が来ると思うので、そういったところを確認した上で掲載している。

大石会長：予算財源として、1,800 万円が収入源となっており、年々増えている。広告効果があつて広報紙に掲載する事業者が増えているのか。

広報課長：広告への申込みは多い。広報紙に掲載されているという区民の安心感と、区民全戸に配布する浸透力から、事業者の広告申込みは増えている。予約枠が埋まってしまい、断ることもある。

F 委 員：広告料の値上げはしないのか。

広報課長：物価高騰による見直しは必要だが、需要との見合いでの値上げは今のところ考えていない。

F 委 員：民間より安ければ広告を掲載したいのではないか。

広報課長：相場との比較は重要なので、考えたい。

大石会長：広告は一枠いくらなのか。

広報課長：一番小さい枠で 44,000 円である。

（広報課から「広報かつしか発行」の今後の方向性について説明をした後、質疑応答、議論）

大石会長：所管課に追加で提出してほしい資料等はあるか。

D 委 員：単位当たりコストについて考えられる指標があれば提案してほしい。試算して、どれが納得できるのか考えたい。広報課として考えられる評価基準を出してほしい。

B 委 員：各施設に配布している広報かつしか、1,350 部の内訳をいただきたい。結構な部数が各施設で処分されていると思われるため、改善したい。

大石会長：残った部数を施設に報告してもらえばよい。

B 委 員：集計することで、各施設に適正な部数を供給でき、余った予算はほかに回すことができる。また、広報紙面の見出しの文字数は決めてほしい。月ごとに枠が変わってしまうため、基準がわからない。「枠があったから」ではなく、最初から枠として欲しい。ぜひ検討してほしい。

大石会長：実績情報についても、適切なものを考えていただきたい。

B 委 員：例えば、生涯学習課では、区民大学アンケートをとっており、その質問項目に入っている「講座を知った理由」は、指標の 1 つになるのではないかと。全参加者数のうち、広報を見て参加している人がどれくらいの割合なのか見ると参考になるのではないかと。

F 委 員：配布数、読んだ人、満足度、のように段階を踏んで考えたほうがいいのではないかと。また、タイトル数、文字数など、レイアウトの枠を決めて、各課にそれを依頼したら手間が減ると思う。

D 委 員：ウェブ版広報の閲覧数について、検索にて直接ホームページに掲載した所管のページを見ると閲覧数としてカウントできないということだが、改善できないか。

大石会長：以上の項目について、次回、回答してほしい。

3 その他

(事務局から事務連絡)

4 閉会